

# 平成 31 年度 学校自己評価システムシート ( 県立進修館高等学校 )

目指す学校像	「進徳修業」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、 明るく活力にあふれ、地域から信頼される学校。
--------	-------------------------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の工夫・改善に努め、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」を支援して確かな学力の確実な定着・向上と第一志望をかなえる進路指導を実践する。</li> <li>2 規律ある態度と豊かな人間性を育み、笑顔で活気のある生徒を育てる。</li> <li>3 地域と連携した活動の推進と教育活動の積極的な発信に努め、地域から期待される学校を目指す。</li> </ol>
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(月日現在)			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	○義務教育段階の基礎学力を定着させるとともに、受け身姿勢の生徒が多い現状を踏まえ、さらに主体的な生徒の学びを促し、教員・生徒間のやり取りが活発な授業を展開する必要がある。	○基礎学力の向上及び定着と主体的な学びを促す授業の実施に向けた工夫及び改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒に見合った「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業研究及びICTの活用</li> <li>・基礎学力の向上に向けた授業の工夫・支援の充実、学習会の実施</li> <li>・基礎力診断テストを活用しての事前指導・事後指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科内で互見授業及び授業研究を実施したか</li> <li>・授業力向上研修会を実施したか</li> <li>・家庭学習時間が増加したか</li> <li>・定期考査前に学習会を実施したか</li> <li>・基礎力診断テストのGTZの数値が上がったか</li> </ul>				
	○安易な進路選択をさせないよう、また主体的に自己の進路を考えさせるよう組織的かつ計画的な進路指導が必要である。大学進学指導、資格取得や検定試験に向けた指導をより充実させる必要がある。	○生徒の主体的進路選択を促す指導と第1志望をかなえる組織的、計画的進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、教科、進路指導部が緊密に連携した組織的進路指導の実施</li> <li>・進修館手帳を活用した進路意識高揚に向けての指導</li> <li>・生徒・保護者への適切な情報提供</li> <li>・進学補習、資格取得や検定試験合格に向けた指導の充実</li> <li>・生徒の能力や適性に見合ったミスマッチを防ぐきめ細かな就職指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的、計画的な進路指導が実施できたか</li> <li>・進学補習への参加生徒数が増加したか</li> <li>・進修館手帳を効果的に活用できたか</li> <li>・保護者への進路情報を随時提供したか</li> <li>・生徒・保護者アンケートの「きめ細かな進路指導を行っている」割合が増加したか</li> <li>・第1志望進路決定率が増加したか</li> <li>・資格取得及び検定合格率が向上したか</li> </ul>				
2	○基本的生活習慣の確立や規律指導にこれまで組織的に取り組み、大きな成果を上げてきている。今後も継続して指導に当たることが必要である。 ○いじめ、特別支援、不登校等に対応するために教育相談の校内体制を整備する必要がある。	○基本的生活習慣と規律ある態度の育成に向けた組織的、継続的な生徒指導の実施 ○個々の生徒の情報交換及び情報共有による早期対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の日常生活における「凡事徹底」</li> <li>・頭髮整容指導等の組織的な指導</li> <li>・教育相談機能の整備と適切な対応</li> <li>・「いじめ防止対策推進法」や「障害者差別解消法」に基づく校内体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の乱れによる遅刻及び欠席が減少したか</li> <li>・問題行動発件数が減少したか</li> <li>・生徒アンケートの、規律ある態度の育成に係る各項目で改善が見られたか</li> <li>・いじめや特別支援教育に関する校内研修会を実施したか</li> </ul>				
	○部活動の充実と活躍が学校の一体感、盛り上がり大きく関わる。教職員の負担を軽減しながら、部活動・学校行事を活性化させることが課題である。	○部活動や学校行事等における生徒の主体的活動の促進と活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入の積極的奨励及び未加入者への指導</li> <li>・部活動間の交流と活動実績の向上</li> <li>・生徒会活動を基に生徒が主体となった学校行事等の活性化</li> <li>・教職員の負担軽減と部活動・学校行事の活性化の両立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入割合が増加したか</li> <li>・部活動において顕著な活動実績が見られたか</li> <li>・生徒アンケートで「学校行事に積極的に参加した」割合が増加したか</li> <li>・教職員の負担感が軽減したか</li> </ul>				
3	○学科再編を踏まえ、総合学科、工業科を併せ持つ本校の魅力を、地域の中学生にさらに発信していく必要がある。	○多様な情報発信の継続と工夫改善 ○中学生対象の広報活動の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校通信を活用した効果的広報</li> <li>・HP更新回数増加による情報発信</li> <li>・地域活動への積極的な参加</li> <li>・本校の魅力を中学生に伝えることのできる学校説明会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外の行事等に参加した回数が増えたか</li> <li>・学校説明会の参加生徒数が増加し、全学科において1.1倍を超える受検者の応募があったか</li> </ul>				
	○「総合的な探究の時間」で「行田學」に取り組むこととなった。行田市教委、市内関係者、同窓会等と学校が連携し地域に根ざした教育活動を推進する必要がある。	○「行田學」の充実を通しての地域に根ざした学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総探委員会」を中心とした3年間を見据えた「行田學」の企画・運営・実施</li> <li>・行田市教委、市内関係機関、同窓会と連携した教育活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見据えた「行田學」の指導計画を整えることができたか</li> <li>・生徒アンケートで「行田學」に対する肯定的評価が8割を超えたか</li> <li>・行田市教委、市内関係機関、同窓会と連携することができたか</li> </ul>				